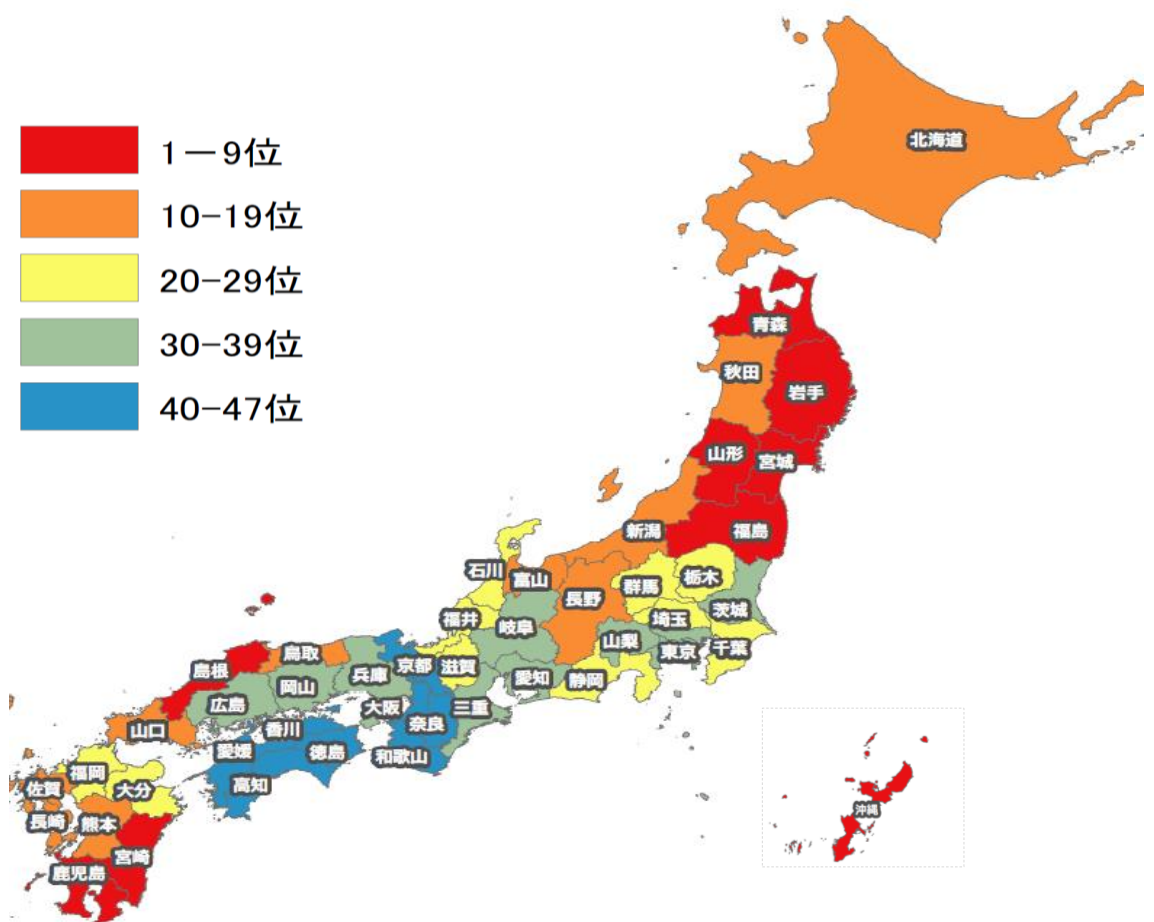


ジェネリック医薬品の使用状況について (令和2年10月診療分)

使用データ : 医薬品使用状況 (※加入者の適用事業所の所在地で集計)
: ジェネリック医薬品分析データ データブック (※医療機関の所在地で集計)

ジェネリック使用割合の都道府県比較(※ 令和2年10月数量ベース)



近畿、四国地方の使用割合は低い。使用割合が低い支部ほど伸び率は高い傾向にある。

ジェネリック使用割合が高い順(令和2年10月)

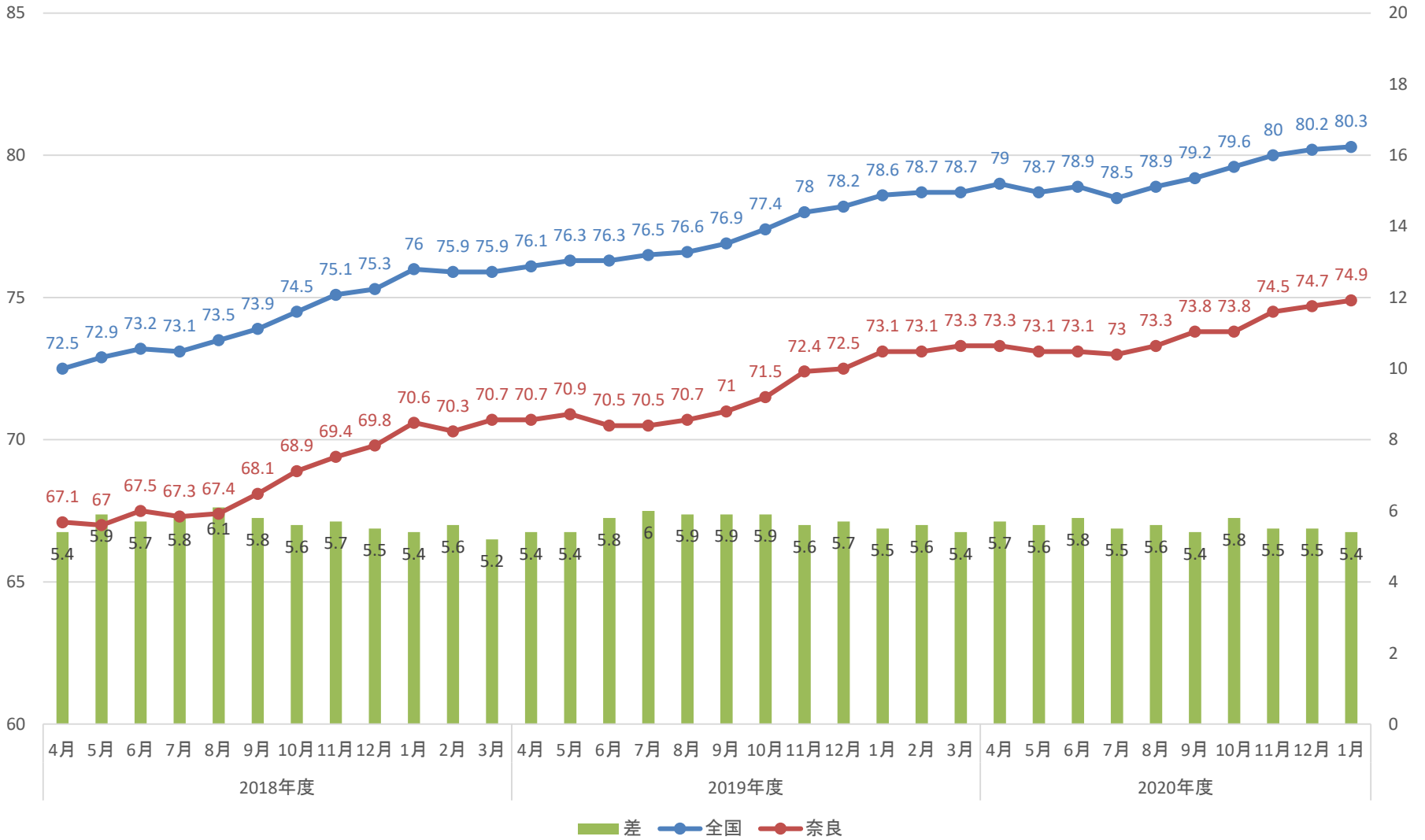
順位	支部	GE割合
1	沖縄	88.5%
2	岩手	85.0%
3	鹿児島	84.7%
4	山形	83.4%
5	宮城	83.3%
6	島根	82.6%
7	宮崎	82.5%
8	青森	82.2%
9	福島	82.1%
10	秋田	81.8%
11	佐賀	81.8%
12	北海道	81.7%
13	新潟	81.6%
14	長崎	81.5%
15	熊本	81.5%
16	長野	81.2%
17	鳥取	81.2%
18	山口	81.1%
19	富山	81.0%
20	滋賀	80.6%
21	静岡	80.5%
22	福岡	80.5%
23	群馬	80.4%
24	千葉	80.0%
25	埼玉	79.7%
26	栃木	79.6%
27	石川	79.6%
28	大分	79.4%
29	福井	79.0%
30	山梨	79.0%
31	茨城	78.9%
32	神奈川	78.9%
33	兵庫	78.8%
34	愛知	78.5%
35	東京	78.4%
36	岡山	78.3%
37	三重	78.2%
38	岐阜	78.0%
39	広島	77.8%
40	香川	76.6%
41	愛媛	76.5%
42	大阪	76.3%
43	京都	76.0%
44	高知	75.0%
45	和歌山	74.8%
46	奈良	73.8%
47	徳島	72.3%
-	全国	79.6%

ジェネリック使用割合の伸び率 令和1年11月〜令和2年10月 ※赤色が伸び率が高く青色が伸び率が低い

順位	伸び率
47	0.6%
35	1.7%
44	1.2%
16	2.1%
19	2.0%
37	1.6%
36	1.6%
30	1.9%
9	2.5%
8	2.5%
46	0.7%
18	2.0%
28	1.9%
43	1.4%
33	1.7%
15	2.1%
32	1.8%
5	2.9%
27	1.9%
17	2.0%
13	2.3%
42	1.4%
7	2.8%
25	1.9%
24	1.9%
4	3.0%
40	1.5%
11	2.5%
45	1.2%
2	4.2%
12	2.3%
22	1.9%
39	1.5%
21	1.9%
20	2.0%
38	1.6%
41	1.4%
10	2.5%
31	1.8%
6	2.8%
14	2.3%
29	1.9%
34	1.7%
3	4.0%
26	1.9%
23	1.9%
1	4.9%
-	2.1%

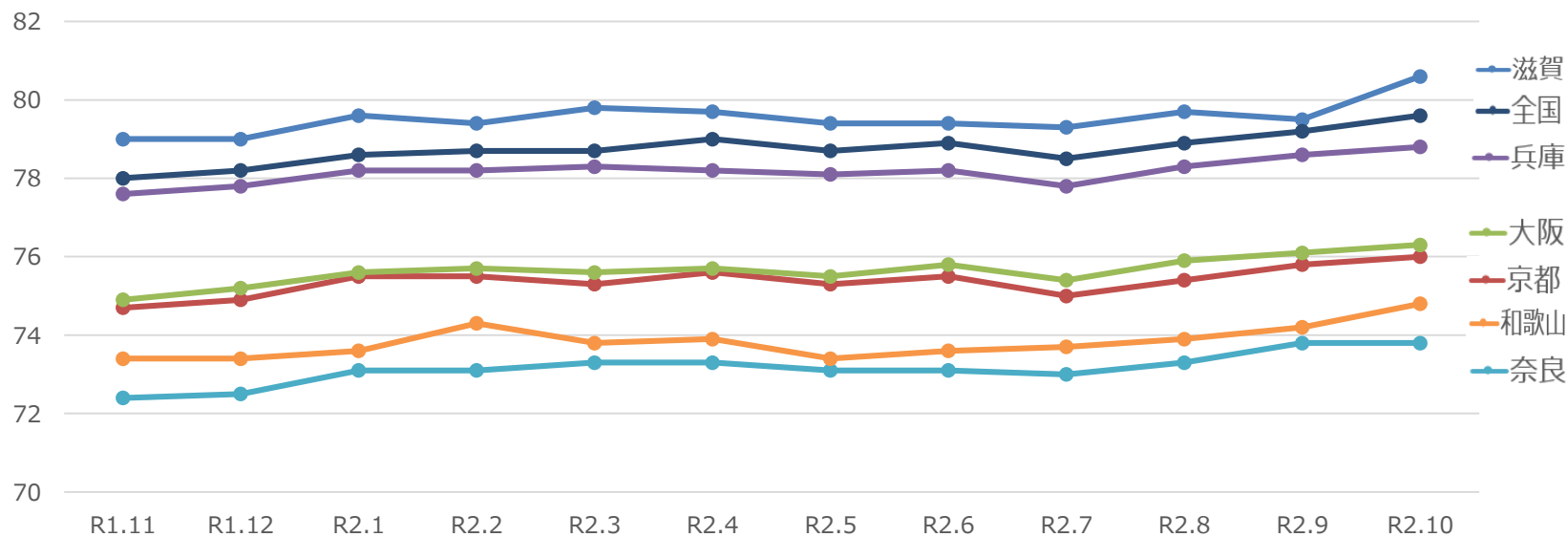
使用データ 医薬品使用状況(※加入者の適用事業所の所在地で集計)

ジェネリック使用割合 経年推移



使用割合は年々上昇しているが、全国との差は変わらない

近畿支部 ジェネリック使用割合経年推移

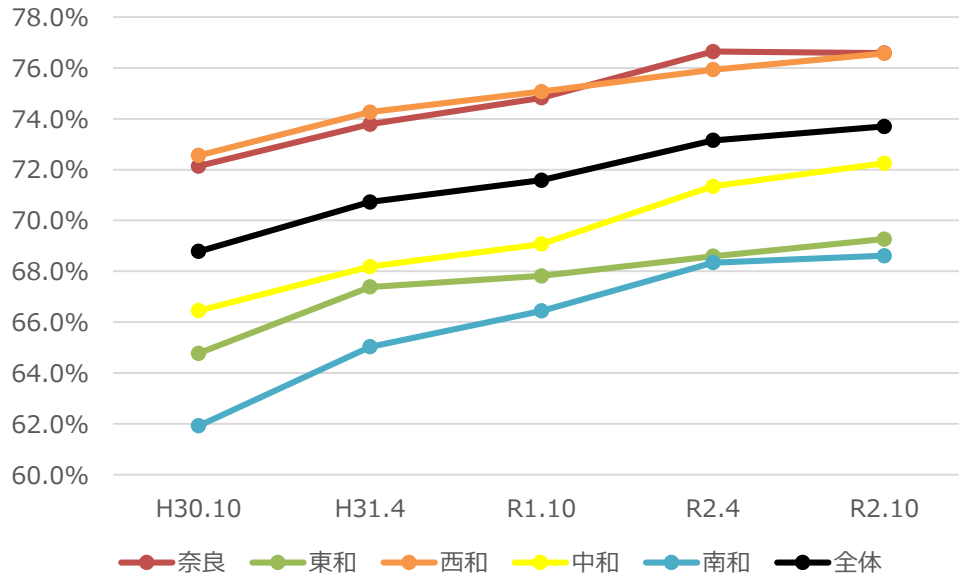


支部	R1.11	R1.12	R2.1	R2.2	R2.3	R2.4	R2.5	R2.6	R2.7	R2.8	R2.9	R2.10	伸び率
滋賀	79.0%	79.0%	79.6%	79.4%	79.8%	79.7%	79.4%	79.4%	79.3%	79.7%	79.5%	80.6%	2.0%
京都	74.7%	74.9%	75.5%	75.5%	75.3%	75.6%	75.3%	75.5%	75.0%	75.4%	75.8%	76.0%	1.7%
大阪	74.9%	75.2%	75.6%	75.7%	75.6%	75.7%	75.5%	75.8%	75.4%	75.9%	76.1%	76.3%	1.9%
兵庫	77.6%	77.8%	78.2%	78.2%	78.3%	78.2%	78.1%	78.2%	77.8%	78.3%	78.6%	78.8%	1.5%
奈良	72.4%	72.5%	73.1%	73.1%	73.3%	73.3%	73.1%	73.1%	73.0%	73.3%	73.8%	73.8%	1.9%
和歌山	73.4%	73.4%	73.6%	74.3%	73.8%	73.9%	73.4%	73.6%	73.7%	73.9%	74.2%	74.8%	1.9%
全国	78.0%	78.2%	78.6%	78.7%	78.7%	79.0%	78.7%	78.9%	78.5%	78.9%	79.2%	79.6%	2.1%

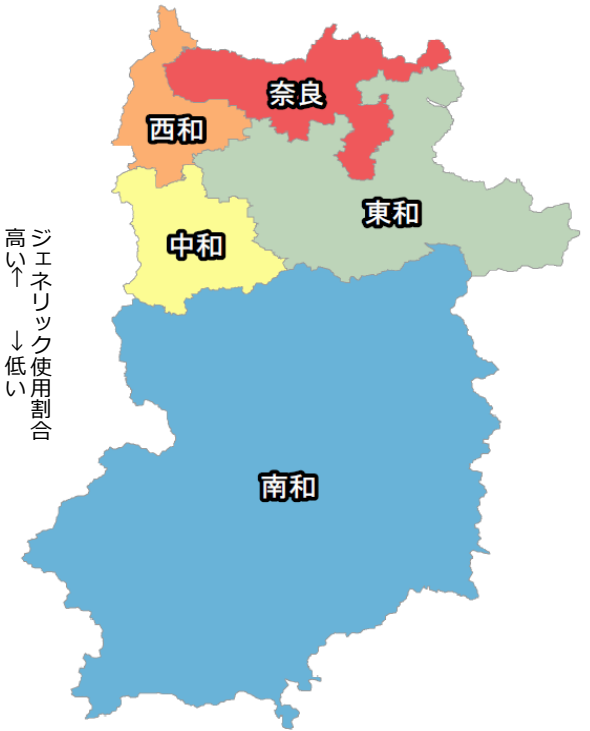
全国平均に近い兵庫、滋賀と下位の大阪、京都、奈良、和歌山に2極化している。伸び率のトップは滋賀支部である。

二次医療圏別 ジェネリック使用割合経年推移

二次医療圏別ジェネリック使用割合

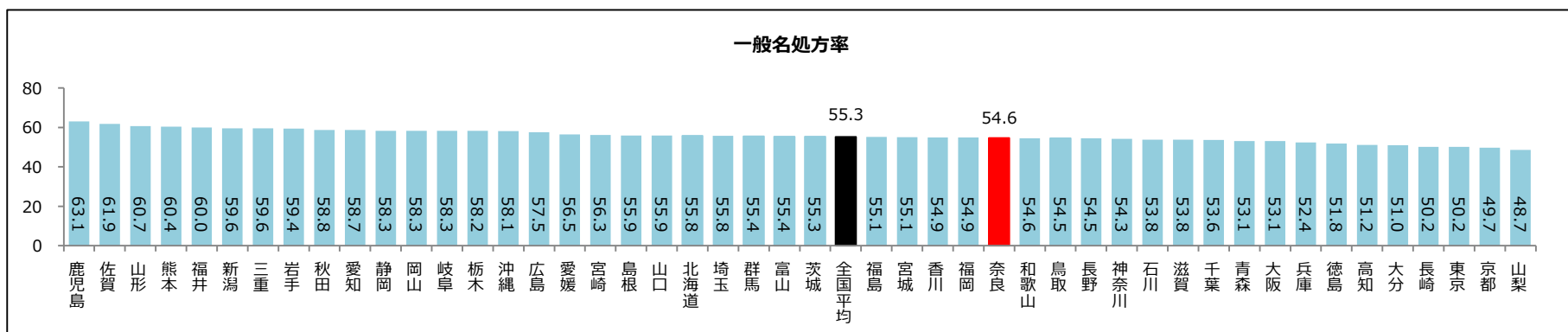
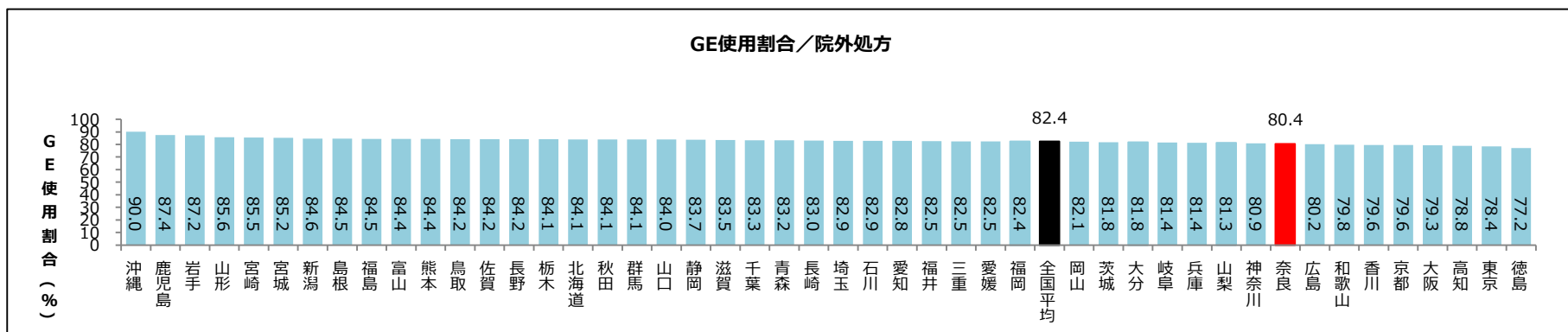
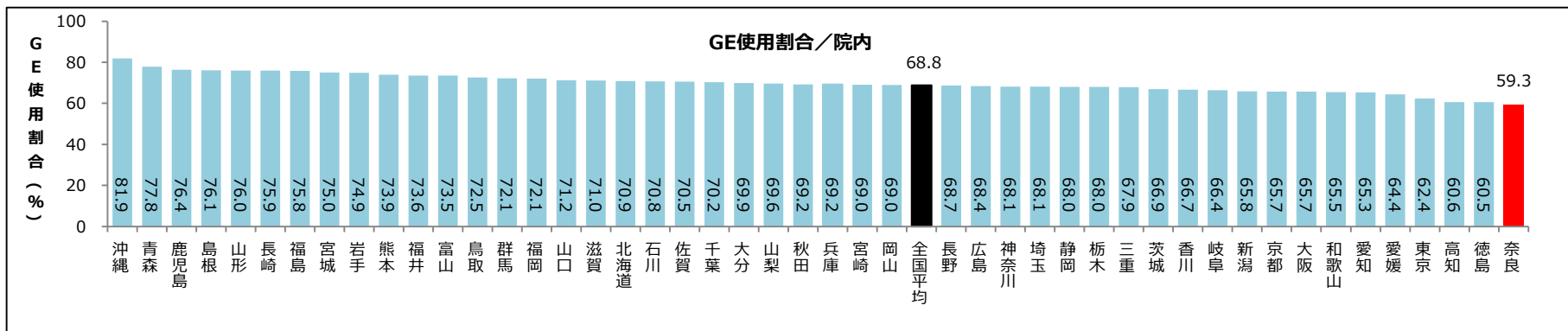


ジェネリック使用割合
高↑
低↓

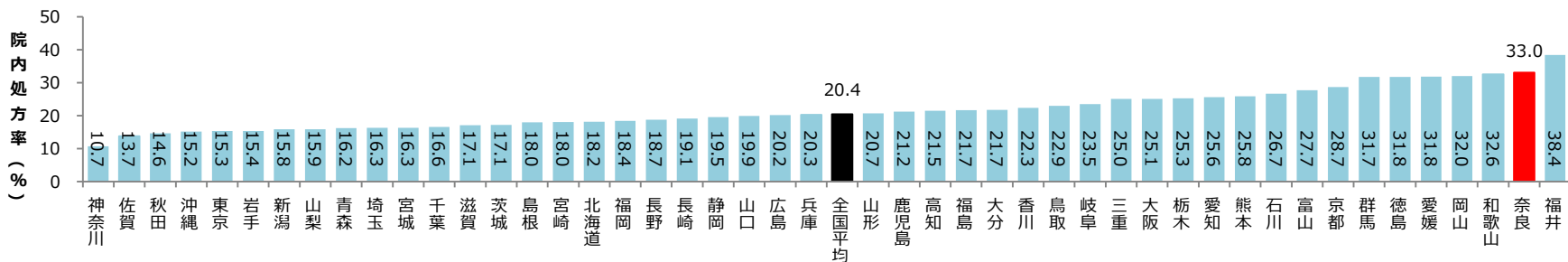


二次医療圏	H30.10	H31.4	R1.10	R2.4	R2.10
奈良	72.1%	73.8%	74.8%	76.6%	76.6%
東和	64.8%	67.4%	67.8%	68.6%	69.3%
西和	72.6%	74.3%	75.1%	75.9%	76.6%
中和	66.5%	68.2%	69.1%	71.3%	72.3%
南和	61.9%	65.0%	66.4%	68.3%	68.6%
全体	68.8%	70.7%	71.6%	73.1%	73.7%

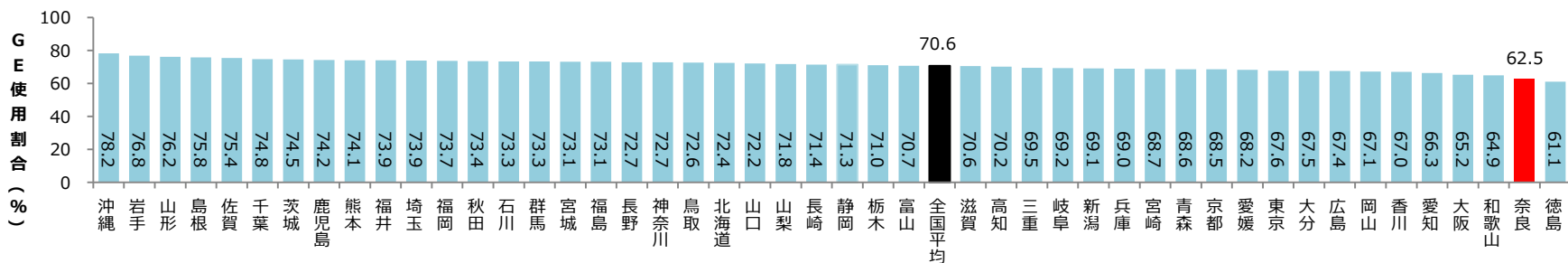
北部で高く南部で低い使用割合となっている



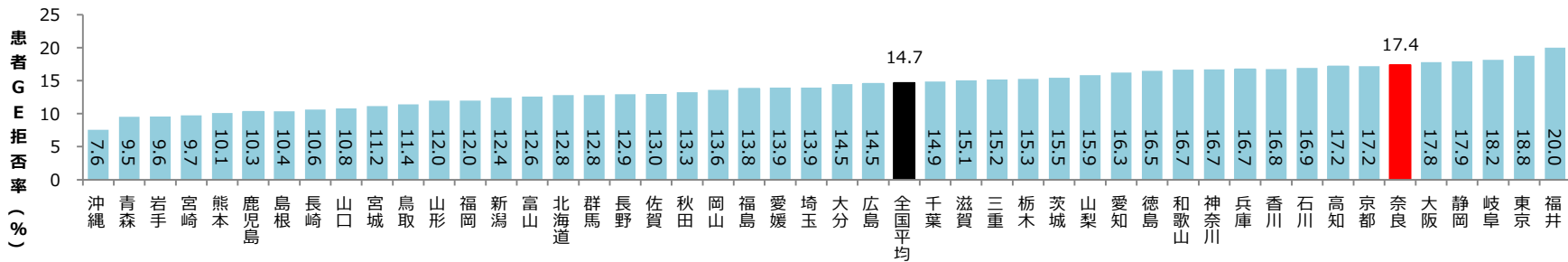
院内処方率



公費対象者ジェネリック医薬品使用割合



加入者GE拒否割合



目標

保険者機能強化アクションプラン(第5期) KPI

全支部において、ジェネリック医薬品使用割合(※)を80%以上とする。ただし、ジェネリック医薬品使用割合が80%以上の支部については、年度末時点で対前年度以上とする。
(※医科、DPC、歯科、調剤)

令和3年度協会けんぽ KPI

ジェネリック医薬品使用割合(※)を80%という目標に向けて、年度末の目標を支部ごとに設定する。ただし、ジェネリック医薬品使用割合が80%以上の支部については、年度末時点で対前年度以上とする。(※医科、DPC、歯科、調剤)

令和3年度奈良支部 KPI

76.5%(令和4年3月診療分)

国の新たな目標

2023年度末までに後発医薬品の数量シェアを、全ての都道府県で80%以上
※2021年4月27日経済財政諮問会議の「社会保障ワーキンググループ」で厚生労働省が提示

【協会けんぽにおいて重点支部の指定及び取り組み支援】

令和3年度については、以下の重点支部を指定し、取組の強化を図る。

対象支部:東京支部、京都支部、大阪支部、**奈良支部**、和歌山支部、徳島支部、高知支部